

☆ エトレチナート

レチノイド(ビタミンAおよびその誘導体の総称)の一種。上皮組織の増殖および分化を調節する作用がある。

☆ 免疫抑制薬内服

メトトレキサートやシクロスポリンを単独で用いる。

※ ステロイド内服は膿疱性乾癬を惹起する可能性があるため、原則として行わない。

問題4

尋常性乾癬で正しいものはどれか。

- 1) ポートリエ微小膿瘍
- 2) コゴイ微小膿瘍
- 3) ムンロ微小膿瘍
- 4) ニコルスキー現象
- 5) ケブネル現象

解答：3、5

解説：

- 1) ポートリエ微小膿瘍；菌状息肉症などのT細胞リンパ腫でみられる。
- 2) コゴイ微小膿瘍；多房性の膿瘍、つまり海綿状膿瘍。細胞膜が網目状に残存したために起こる。膿疱性乾癬でみられる。
- 3) ムンロ微小膿瘍；角層以下に現れた小さな無菌性膿瘍。尋常性乾癬に特徴的である。
- 4) ニコルスキー現象；正常に見える皮膚を摩擦すると、水疱を生じる現象。
- 5) ケブネル現象；健康皮膚部に摩擦や日光などの刺激を加えると、病変を生じる現象。乾癬などで陽性となる。

問題5

落葉状天疱瘡について正しいものを選び。

- 1) 口腔内水疱が初発症状のことが多い。
- 2) 病理組織像はブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群(SSSS)に類似する。
- 3) 蛍光抗体法で基底膜に一致したIgG沈着がみられる。
- 4) ELISA による診断ができる。
- 5) ステロイド外用が有効である。

解答：2、4

解説：1、口腔粘膜病変がみられるのは尋常性天疱瘡。

- 2、落葉状天疱瘡は、棘融解性水疱形成が表皮角層下～表皮上層でみられる。SSSS は、表皮上層で落葉状天疱瘡と類似した棘融解と深い水疱を生じる。角層下～顆粒層での裂隙形成や棘融解、多核白血球の浸潤などを認める。
- 3、水疱性類天疱瘡のことである。落葉状天疱瘡では、表皮全層の細胞間に沈着する。
- 4、抗デスモグレイン1抗体のみを検出する。
- 5、軽症でもステロイド全身投与が原則だが、外用は無意味である。

* 講義では、ステロイド外用は無意味と言っていたが、教科書では、有効なこともある、と

記載されている。(参考：新しい皮膚科学 p216)

問題6

正しい組み合わせのものを選べ。

- 1) 水疱性魚鱗癬線紅皮症・・・サイトケラチン
- 2) 尋常性魚鱗癬・・・ロリクリン
- 3) 葉状魚鱗癬・・・トランスグルタミナーゼ
- 4) Herlitz 致死型先天性表皮水疱症・・・ラミニン5
- 5) 進行性紅斑角化症・・・インボルクリン

解答：4 (正確な数字を考慮しなければ、1,3,4が答え)

解説：

- 1) サイトケラチン→サイトケラチン1または10
水疱型魚鱗癬線紅皮症：サイトケラチン1または10の遺伝子異常
常染色体優性遺伝
変異ケラチンが正常ケラチンの構造形成阻害
アポトーシスを誘導
新生児期に全身びまん性紅潮
- 2) ロリクリン→プロフィラグリン、フィラグリン
尋常性魚鱗癬：表皮顆粒層蛋白であるフィラグリン前駆体であるプロフィラグリンのmRNA の不安定化
顆粒層が薄くなって消失
常染色体優性遺伝
3) トランスグルタミナーゼ→トランスグルタミナーゼ1
葉状魚鱗癬：トランスグルタミナーゼ1の遺伝子異常
常染色体劣性遺伝

* このほかに・・・

非水疱型先天性魚鱗癬線紅皮症：常染色体劣性遺伝
一部の症例で、トランスグルタミナーゼ1の遺伝子異常

4) ○

Herlitz 致死型先天性表皮水疱症：接合型表皮水疱症
ラミニン5の表皮基底膜蛋白の異常による接着障害
常染色体劣性遺伝

※Herlitz 致死型=Herlitz 型

- 5) インボルクリン→ロリクリン
進行性紅斑角化症：ロリクリン遺伝子の変異
常染色体優性遺伝

問題7

皮膚疹の症状でないものはどれか。

- 1) 紅斑